

# 自己評価結果公表シート（平成22年度）

学校法人 清明学園 丘珠幼稚園

## 1. 園の教育目標

- \*思いやりのあるやさしい子ども
  - ・友だちのよさに気づき、仲良くできる子どもになります。
  - ・命を大切にする子どもになります。
- \*元気でしょうぶな子ども
  - ・明るくあいさつのできる子どもになります。
  - ・元気いっぱいにあそべる子どもになります。
- \*意欲をもってがんばる子ども
  - ・がまんぶよい子どもになります。
  - ・歌をうたったり、絵を描いたりすることが大好きな子どもになります。
- \*よく考えて行動する子ども
  - ・話をじょうずにきき、何でも話せる子どもになります。
  - ・きちんとあと始末のできる子どもになります。

## 2. 本年度重点的に取り組む項目

- \*子どもが目を輝かせ生き生きと活動する遊び
- \*もっとこうなりたい・こうしたいが見つかり適えられる保育計画
- \*友だち・学級・学年・異年齢の集団に育てられる環境づくり
- \*行事が育ちを生み満足と自信をもたらす

## 3. 重点項目の取り組みと自己評価

子どもが目を輝かせ生き生きと活動する遊び	子どもの目の輝きにはそれぞれに実感と自信を持って過ごしている中で、自己評をしてみてもわかったことは、年齢の低い子ほどその充実感が高く、経験・年齢が高くなるにつれて、その多様さに応えきれていない反省が生まれた。これからの課題としてさらに遊びのエキスパートを目指し、遊びを発展させる力や発展させた遊びの蓄えをたくさんもった園になることが必要であると考えた。3歳児4歳児が半分を占めるようになった遊びの中で、その遊びから育った子どもたちの、さらに伸ばしたい先と、そのための見取りや支援をしっかりと身に付けていかなければならない。
もっとこうなりたい・こうしたいが見つかり適えられる保育計画	最も自己評価が厳しかった項目である。教師の経験年数が低い程、目の前のことで精いっぱいになっていた自分、子どもたちの意欲を見たしてあげられなかった自分の技術不足、等々を反省し努力の必要性を強く認識している。子どもたちの中にもっともっとやる気を生み、それを感じ取ることができた教師なら、今後の精進で適えられる保育計画を立てることもそう遠くないという願いで、次年度更にこの項目を分化して努力目標と手段を明確にしていくこととした。子どもも教師も、よき先輩から学ぶ・盗む・教を請うことが大切であり、進んでそれが出来るような人間関係と切磋琢磨の環境作りにさらに力を入れていきたい。
友だち・学級・学年・異年齢の集団に育てられる環境づくり	高い自己評価の一番の要因は、全園で取り組む異年齢活動“なかよシクラス”が軌道に乗り、進級と共に体験を重ねた子どもたちの育ちと教師の積極的取り組みがみられたことだと思われる。全園の取り組み・前年に引き続いての取り組みは、全ての子どもたち・学級に効果をもたらす為成果を実感しやすかったのだろう。また継続することによって、子ども一人ひとりの心の成長のための時間と経験が保障されることも大きい。次年度は学年枠に不均衡が生じたため、新しい年齢活動の手段意識、異年齢だけではない集団での育ちに必要な、人的・物的環境の更なる研鑽が必要である。
行事が育ちを生み満足と自信をもたらす	最も高い自己評価であった。期毎の努力目標であり、その成果の発表の場と捉え、各行事と日々の生活(遊び)を結び付けて行ったことが、行事に追われるのではなく、子ども一人ひとりが、学級が、学年が、その成長を実感できる場となった。そのことが次へのやる気を生み、子どもも教師の主体的に生活する基盤となっていった。満足と自信そして次への意欲は連続して現れる相乗効果をもたらしたが、教師にその見通しと、それを加速し支援する技術があればもっとこうなったかもしれないといった欲が生まれていることは、しっかりと次に繋げていきたい。

## 4. 総合評価と今後の課題

若年・経験不足の園長への交代に伴い、園の教育理念を再確認しながら教育課程を作成する必要性が生まれ、環境の整備や保育の充実が、教職員一人ひとりの努力とその結束で実践できたことが成果である。今後は更に、園全体として取り組むことで得た評価に加え、その中で、子ども一人ひとり、教師一人ひとりが自ら成長を感じ満足感の得られる、きめ細やかな環境と活動の見直しと構築に取り組んでいきたい。